

みやざき文化振興計画（仮）の骨子案について

現状・課題

1. 社会情勢の現状

- 文化芸術基本法の改正
- 人口減少、少子高齢化の進行
- デジタル化、グローバル化の進展
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大
- オリンピック・パラリンピック東京大会における文化プログラムの実施 など

2. 本県における現状と課題

- 国文祭・芸文祭の開催による県内の文化活動の盛り上がりを一過性のものとせず、引き続き維持・発展させていく必要がある。
- 日頃から文化に親しむ県民の割合が、目標値を大きく下回っており、さらなる裾野の拡大が必要である。（R4実績値 53.0% R8目標値 81.0%）
- 文化活動の担い手及び文化活動を支える人材双方が不足しており、人材の育成に努める必要がある。
- 文化芸術と観光やまちづくりなどの異なる分野との連携による新たな価値の創出が求められている など



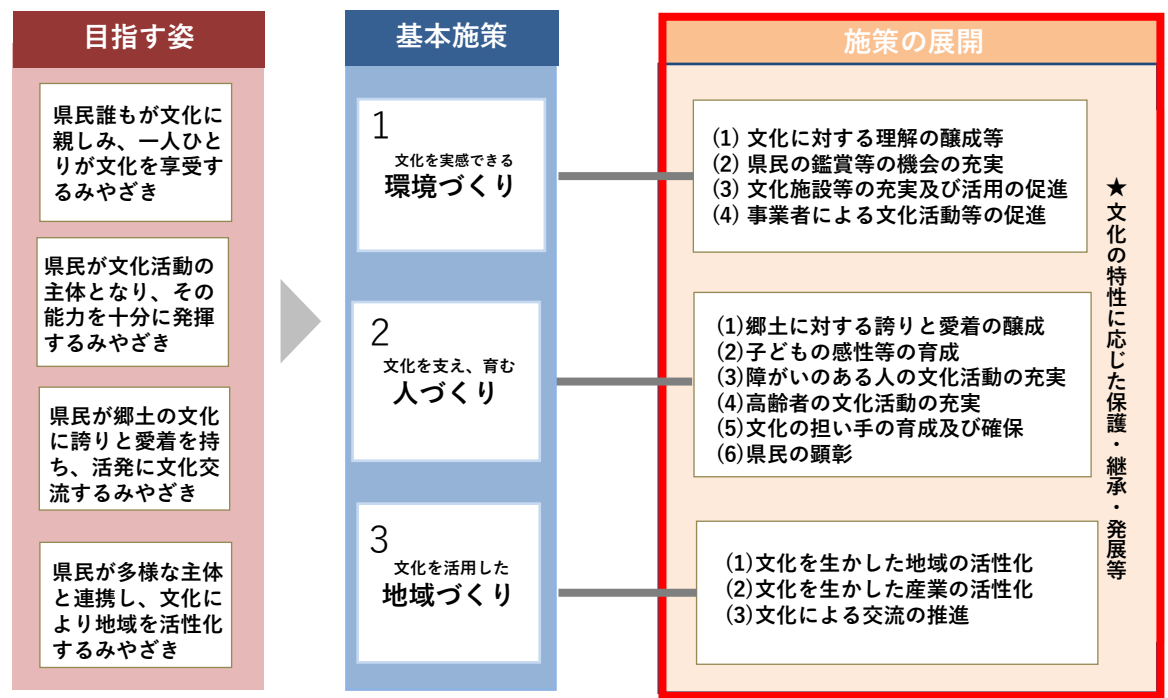
3. 基本目標と方向性

基本目標：文化でつくる、一人ひとりが生き生きと活躍できる社会

【ア. 基本的施策の方向性（案）】

- 【文化の裾野の拡大】 より多くの県民が文化に興味と関心を持ち、理解を深められるような環境・人材づくりを行う
- 【他分野との連携の推進】 文化の有する創造性や多様な価値を生かし、異なる分野の主体や施策と連携し、地域の魅力を増進する

【イ. 施策の展開（案）】



みやざき文化振興計画（令和5年度～令和8年度）

【推進体制】

- 文化の振興等に関する施策の総合的かつ計画的な推進
- 市町村との連携強化
- 文化団体等・関係機関との連携強化